



当館に展示されているアゴを鉄砲で支えられたヒグマと、まわりに群がる大勢の人が写った写真。ヒグマは、雄の成獣で体長2.4m、体重300kg。明治45年5月24日、寺島豊次郎氏により撮影されたものです。

当時の新聞記事によると、同年5月22日あたりから利尻島にクマがあらわれていたとのこと。どうも利尻島の対岸から島に泳ぎわたり、一度上陸してからまた海に戻ったようです。そうして再び、アフトロマナイ海岸（現在の旭浜）に上陸しようと海岸に向かって泳いでいたところを☒（カクシメ）赤坂漁場の若い衆に発見され、大捕物のすえに斧で撲殺されてしまいました。

では、なぜ島に渡ってきたのか。言い伝えでは、天塩の山火事で食べ物がなくなったため、利尻島を目指して泳ぎ渡ってきたといわれています。しかし、「天塩の山火事に追われ天塩から渡った」というのは、本当なのでしょうか？まず、明治45年のこの時期に天塩で山火事はありませんので、「山火事に追われた」という言い伝えは根拠がなくなります。ちなみに、このころの「火事」を挙げると

- ・明治43年5月24日 天塩村市街169戸焼失
- ・明治44年4月 8日 鬼脇村清川31戸・36棟焼失
- 5月13日 鷺泊村本泊～ボン山 7日間延焼
- 5月17日 稚内町720戸・宗谷村71戸焼失、天塩産土原野山火事

以上のように、当時は火事が多くあったときで、人から人へ言い伝わるうちに、クマ騒動と話が組み合わさったのかもしれませんが。

次に、渡り始めたのは「天塩から」といわれています。現在の天塩町の中心地から利尻島までの距離は、およそ50kmあります。クマは“泳ぎの名手”といわれていますし水浴びも好きで、昭和20～30年代までは知床五湖や芦別岳の熊の沼、大雪山の沼の原・沼の平・高原沼などには水浴びのために来るヒグマの足跡が必ず見られたそうです。また、ヒグマが遊泳している記録は、安政3（1856）年5月、石狩川を泳いでいるヒグマを有名な北方探検家である松浦武四郎が3回見えています。また、網走管内置戸町の「おけと湖」を泳ぐヒグマを報道した記事もあります。

しかし、いくら“泳ぎの名手”といえ50km泳ぐのは大変なことです。最短は、稚内からオネトマナイ川にかけての海岸からで、直線距離で20kmを測ります。どのルートでたどり着いたかは謎ですが、今に語り継がれる珍事件といえるでしょう。



八田理學博士所蔵